令和６年度　学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名　（　大分県立日出支援学校　）

１　学校の情報

（１）　学校規模

児童生徒数・・・８０名

（小学部・・・２８名　　中学部・・・２０名　　高等部・・・３２名）

教職員数　・・・７０名

総合計１５０名

（２）　分掌の位置づけ

・生徒指導部所属

・防災教育コーディネーター1 名　防災教育担当教員２名

（３）　地域環境

日出支援学校は、標高５００m、海からの距離２４００m、河川からの距離４００mの小高い丘に立地している。徒歩圏内に多少の土砂災害の危険個所はあるもののハザードマップからは比較的安全な場所であることが分かる。その反面、通学範囲が速見郡から杵築市、国東市は国見町までとかなりの広範囲となっており、校区内には断層帯や津波、浸水や土砂災害等、危険が想定される地域が多く存在する。そのため、発災時には帰宅困難による学校待機や、在宅時における被災リスクが高いといえる。また、気象災害のほとんどは台風や大雨（大雪）によるものであり、ある程度その前兆を捉えることが可能である。

２　取組のポイント

児童生徒が一人一人の命の大切さを知り、安全に行動できるようになるため、生徒指導部、防災教育コーディネーターを中心に以下の取り組みを行う。

① 児童生徒に身につけさせたい資質能力として明確化した「防災の視点」を取り入れた授業実践や、より実践的な避難訓練を行い、実践記録にまとめる。

② 保護者に防災に関する啓発や取り組みの周知、引き渡し訓練や防災研修を実施し、児童生徒とともに家庭における防災力を高めるための取り組みを行う。

③ 教職員の災害に対する知識や技能、危機管理意識を高めるとともに、学校安全に向けた環境・体制の整備を行う。

④ 地域の関係機関や地域住民との協議を行い、災害発生時における連携の在り方や体制づくりを行うとともに地域における防災の啓発力のための取り組みを行う。

３　具体的な取組

実施時期	実施事項
5 月 27 日	職員会議（事業説明、取り組みの周知）
6 月 21 日	火災避難訓練【参加人数：児童生徒 80 名・教職員 58 名】 及び防災アドバイザーによる事後検討会
6 月 26 日	第 1 回実践委員会の開催 （取組の方向性や実施内容、中核教員の役割の確認）
7 月 9 日	保護者・地域住民防災研修【参加人数：38 名】 『防災基礎講座』 講師：50S 合同会社　予防カフェ　首藤　明子氏
7 月 26 日	スクールバス運行ルート減災演習【参加人数：64 名】 講師：大分県防災活動支援センター　川村　正人氏 実地点検【生徒指導部、管理職、スクールバス運行会社】 （日出～杵築～国東方面）
7 月 29 日	職員防災研修 1 【参加人数：教職員 58 名】 『防災教育の視点』 講師：大分大学減災・復興デザイン教育研究センター　岩佐　佳哉氏

8 月 21 日	スクールバス緊急対応行動表作成 【大分県防災活動支援センター　川村　正人氏　スクールバス担当】
8 月 27 日	初期消火訓練（各学部） 【参加人数：教職員 58 名】
9 月 3 日	職員防災研修２【参加人数：教職員 58 名】 『災害の教訓と防災教育の重要性～お作法としての防災教育～』 講師：大分大学減災・復興デザイン教育研究センター　板井　幸則氏
9 月 18 日	先進校視察（熊本県立球磨支援学校） 【参加者：防災教育コーディネーター、生徒指導主任】
9 月 19 日	先進校視察（熊本県立かがやきの森支援学校） 【参加者：防災教育コーディネーター、生徒指導主任】
10 月 9 日	保護者・地域住民防災研修【参加人数：　保護者 25 名】 『助けて！を言える準備をしよう』 講師：大分県防災アドバイザー　姫野　松男氏

10 月 23 日	第２回実践委員会 （取組の中間報告、校内安全巡視）
11 月 14 日 ～15 日	令和６年度学校安全指導者研修（岩手県）参加 【参加者：生徒指導主任】
11 月 28 日	シェイクアウト訓練
12 月 3 日	地震避難訓練【参加人数：児童生徒 80 名・教職員 58 名】 及び防災アドバイザーによる事後検討会 引き渡し訓練・地震体験車 【引き渡し参加率：５７％・メール開封返信率６８％】
12 月 20 日	公開研究発表会の実施【参加人数：教職員 86 名】 基調講演『特別支援学校の防災減災―学校も地域も一緒に助かるために』 講師：福祉防災コミュニティ　福祉防災上級コーチ　湯井　恵美子氏
1 月 28 日	第 3 回実践委員会の開催 （取組の最終報告）

授業実践・全校集会での働きかけ

学部	教科等	題材名	児童生徒の様子・教材
小学部	体育	「着衣泳を体験しよう」	
	生活	「交通ルールを守ろう」	
	生活	「ダンボールベッドの寝心地は」	
	生活	「避難後の生活を体験しよう」	
	生活	「備蓄食を食べてみよう」	
	生活	「〇〇があれば大丈夫」	
	生活	「地震に備えて出来ること」	
中学部	社会	「安全な暮らしと街づくり」	
	社会	「生活を支える事業」 （社会見学）	
	体育	「ストレッチをしよう」	
	学活	「台風 10 号の被害を受けて」	
	学活	「長靴で歩いてみよう（水害時）」	

	理科	「水の流れやしみこみ方の観察」	
	生活単元学習	「防災について伝えよう」 （学習発表会）	
	美術	「デザイン画を描こう」	
高等部	国語	「情報を読み取ろう」	
	農業	「雨がっぱを作ろう」	
	メンテナンス	「協力して清掃しよう」	
	家庭	「災害時の調理を知ろう」	
	美術	「防災ポスターを作ろう」	
	社会	「日本の自然災害」	
	生活単元学習	「防災グッズを使ってみよう」	
	理科	「土砂災害の仕組み」	
	国語	「防災新聞を作ろう」	

全校集会	5 月・・・防災の取り組み紹介、合言葉の募集 6 月・・・合言葉、防災キャラクター「サニー」の紹介、 7 月・・・防災クイズ 9 月・・・防災クイズ 10 月・・・絵本の読み聞かせ 11 月・・・防災ベンチの紹介 12 月・・・絵本の読み聞かせ 1 月・・・防災クイズ 2 月・・・一年間の振り返り	 ©防災士会みやぎ

４　取組における成果と課題

（１）成果

〇防災教育の視点を入れた授業実践事例において、防災の視点を例示、明確化して示すことで各学部 3 事例以上の提案に対し、計 30 事例の実践が行われた。

〇ブラインドで行うなど実践を想定しながら行ったつもりの避難訓練に対し、アドバイザーからの多くの指摘や助言、教職員の自分事として捉えたアンケートでの意見によってブラッシュアップしていくことができた。

〇煙体験、初期消火訓練、引き渡し訓練、地震体験車など初の試みを実施することができた。

〇参加率向上のため行事日に合わせた保護者・地域防災研修や、防災だよりの定期的な発行により保護者の防災意識の向上に資することができた。

〇日出町の協力を得て防災研修案内を広く地域へ周知することができ、複数名の参加者を募ることができた。

〇職員防災研修により防災教育の視点や学校安全対策に対する職員の日常的な意識が飛躍的に向上した。

〇スクールバス運行会社にも参加協力を得て、職員全員による運行ルートの安全図上訓練と担当者によるスクールバスでの実地検証を行い、危険個所の発見や見直しによる新規の緊急避難場所開拓ができた。

〇緊急時の連絡方法について検討を行い、Google チャットを利用した連絡スペースを設置することができた。

〇毎月の防災だよりの発行により校内における防災教育の実践周知や防災に関する基礎知識、災害伝言ダイヤル「１７１」の周知、利用体験を実施できた。

〇地域関係各所に協力を得ることができた。

〇実践委員会で、校内安全点検や備蓄品保管場所の検討を行うことができた。

（２）課題

●今年度は事業委託のため積極的な防災教育の視点を入れた実践が行われ、防災教育の視点も周知できたが、今後同程度の実践継続は難しい。

●危機管理マニュアルの改善は行えたが、同時にマニュアルの脆弱さが露呈し、その周知方法や個々のアクションカード等の必要性が感じられた。

●引き渡し訓練での緊急連絡に対する保護者の開封返信率が 68%と訓練とは言え決して高いといえない。
●研修予算確保が難しい。

５　今後の取組の見通し

・防災の視点を入れた授業実践事例をまとめ、今後も参考にできるよう共有。
・全校集会での防災コーナーを避難訓練の月に実施。
・児童生徒へのブラインドによる避難訓練の実施。
・定期的なシェイクアウト訓練を実施。
・校内安全、放送機器の定期的な点検。
・引き渡し訓練は隔年で、毎月１日か１５日の災害伝言ダイヤル「１７１」の利用可能日に設定。
・引き渡し、緊急連絡にも利用する３９メールの保護者開封・返信率向上のため定期的な利用を推進。
・県主催の防災研修への積極的な参加。
・危機管理マニュアルの周知（職員・保護者）と災害アクションカードの作成。
・緊急連絡用スペース（Google チャット利用）の設置。
・防災だよりを学期に１回以上発行。
・地域関係機関と連携を取りながら、児童生徒の待機避難所、福祉避難所としての在り方を検討。